

標高500メートルの山のとっぺん。
世羅高原の畑から、
農薬、化学肥料を使わずに育てた採れたての野菜をお届けします。

まさかビーツが

柵を飛び越えて畑に入るシカは、どこから畑に入っているのかが、わかりにくい…。怪しそうなところの柵をあちこち補強している間に、6月1、2、3日と、3日間で、“となりの畑”のまだ小さいキュウリの葉が食べつくされてしまいました。さらに、5、6、7日で、小さな実がつき始めていたビーツが全滅。まだ、実なんてできていない落花生も、半分くらいが掘り返されてしまいました。

まさかのキュウリや、間引きが済んで大きくなるのを待つだけになっていたたくさんのビーツが収穫できなくなってしまったのは、ショックでした。でも、大丈夫。2回目のビーツは“南の畑”に、次のキュウリは、また種をまきます。すぐ近くにあったオクラ、モロッコ豆、ナスは、食べられずに済みました。



〈まさか?!〉

キュウリ、全滅。
7月初め頃から、収穫の予定でした。
キュウリの葉を、これほどまでに食べつくすとは…。



〈まさか?!〉

ビーツ、全滅。
これも7月初め頃から、収穫の予定でした。
ビーツが食べられたのは、初めてです。
一度に全部ではなく、端から順番に食べられました。
右側のうねのモロッコ豆は食べられませんでした。

効率だけではやっていけない

それでも何とか日々収穫ができるのは、少量多品目栽培のおかげ。効率だけを求めるのなら、同じものを同じ場所で大量に作る方が、はるかに効率的ですが、リスクを避けるために、時期をずらしたり、畑の場所を変えたりして、少しずついろいろな野菜を作るのが、自給的野菜の作り方。あれっ? どこか新型コロナウイルスの感染拡大に備えて、病院のベッドを空けておくのと似ているような? 効率だけではやっていけません。

ナスの支柱立てで手にできた豆がつぶれてしまったTonchan、スーパーへ買い物に行ったときに、手指消毒用のアルコールをプシュッとしたりとたん、つぶれた豆にシューッ! なんてことを言っていたら、緊急事態宣言! 6月29日、“南の畑”にシカが侵入。ビーツと人参が食べられています! 困った…。

まさか…



〈7月の野菜〉

□露地の畑では、グリーンボール、縮緬キャベツ、キャベツ、ビーツ、間引き人参などが収穫中。

6月末から、韓国カボチャ、コリンキーの収穫が始まりました。

中旬頃からは、モロッコ豆、ナスなどの収穫が始まる予定です。

□ハウスの中では、ズッキーニ、人参が収穫中です。

下旬頃からは、ミニトマト、ピーマンの収穫が始まる予定です。

〈ナンテコッタ!〉

「1匹、2匹、あれ? 3匹?」
「おおー、お母さんも一緒じゃあ〜!」
シトシトと小雨の降る日のお昼前、
「こんな日は、出る…」と、思っていたら…。
詳しくはウラに。